

シリーズ 景観 61

市は「住むひとが誇りと愛着を感じ、訪ねるひとの心に残る松江の景観づくり」を推進しています。



「みんなで残したい松江の景観400選集」は、市ホームページでご覧いただけます。

【問い合わせ】まちづくり文化財課 ☎55-5387

松江の景観400選

検索

『みんなで残したい松江の景観400選集』から
景観審議会が特にお薦めする景観

矢田の渡し

No. 388

「出雲国風土記に記された朝酌(矢田)の渡しであり、その位置は当時と比較し多少移動しているようですが、千数百年にわたって受け継がれてきた交通の要所です」と推薦いただきました。

矢田の渡しは、南側の矢田地区と北側の朝酌地区を結ぶ渡船場で、その起源は約1,300年前の奈良時代とされています。出雲国風土記には、出雲国庁から朝酌へ本庄へ千酌を経て隠岐国へとつながる「枉北道(きたにまがれるみち)」を4里266歩(約2km)ほど行った所にある「朝酌の渡し」また

は「朝酌の促戸の渡し」として記述が残っています。平成28年には近くの市道工事に伴う調査でこの「枉北道」の一部とみられる遺跡が発見され、風土記の記述が裏付けられることとなりました。

現在では、大橋川には縁結び大橋をはじめとする6本の橋が架けられ、写真のような通学風景は見られなくなりましたが、朝の通勤時間帯(7時30分～9時)に限って運行が続けられています。

千数百年前の情景を想像しながら、この渡し船に乗船してみてはいかがでしょうか。